

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)について

- 本事業は、デジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費に対して、国から交付金が交付されるものです。
- 令和6年度 向日市が取り組む事業として交付決定が得られており、事業を進めています。
- 本交付金を活用した事業については、目標数値を設定し、その達成度合いを各自治体における有識者委員会において検証することが求められており、次年度の委員会において、効果検証を実施します。

(デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ))

事業名	事業概要	事業内容	事業予定額	KPI	進捗・今後の予定
向日市どこでも図書館事業	まちの魅力を高め、誰もが快適に暮らし続けられる地域づくりの一環として、向日市立図書館における電子書籍サービスを実施する。 行政サービスの利便性向上により、図書館利用者の満足度を高め、本市に「ずっと住み続けたい」という定住意欲の促進を図ることを主な目的とする。	【電子書籍サービス】 ・インターネット上の向日市専用クラウド型電子図書館「どこでも図書館」から、電子書籍の閲覧、貸出ができるサービス ・本市に在住・在勤・在学の方であれば、PC・スマホ・タブレット上から、年中無休で24時間、いつでもどこでも利用可能。	9,257千円	①「どこでも図書館」コンテンツ数 R6:1,000冊、R7:2,000冊、R8:2,500冊 ②「どこでも図書館」閲覧(ログイン)数 R6:9,500件、R7:56,000件、R8:62,700件 ③「どこでも図書館」貸出数 R6:1,400冊、R7:12,000冊、R8:13,200冊 ④「どこでも図書館」利用満足度 R6:60%、R7:65%、R8:75% ⑤本市に対する市民の定住意向の割合 R6:80%、R7:85%、R9:90%	令和6年11月1日サービス開始予定 当初コンテンツ数:約500冊
「ぴったりサービス」を利用した行政手続きデジタル化事業	まちの魅力を高め、誰もが快適に暮らし続けられる地域づくりの一環として、「行かない・書かない窓口」サービスを実装する。 行政手続きにおけるオンライン申請の導入および窓口タブレットソリューションの活用により、市民の利便性向上を図り、市民の満足度を高めるとともに、本市に「ずっと住み続けたい」という定住意欲の促進につなげていく。	【オンライン申請サービス(行かない窓口)】 ・国が提供する電子申請システム「ぴったりサービス」を用い、行政手続きのオンライン化を推進。 ・市民はPC・スマホ・タブレット上から、年中無休で24時間、いつでもどこでも利用可能。 ・手続きのために、市役所に出向く必要がなくなり、「書かずに」「待たずに」申請を行える。 【窓口タブレットソリューション(書かない窓口)】 ・ぴったりサービスと連携した窓口タブレットソリューションを導入し、書かない窓口を実施。 ・電子申請と窓口受付後の業務フローを統一化し、職員の事務効率化を図る。	12,062千円	①ぴったりサービスによる申請件数 R6:100件、R7:1,000件、R8:3,000件 ②ぴったりサービスによる申請手続きの件数 R6:5件、R7:10件、R8:20件 ③窓口タブレットソリューションの利用回数 R6:500回、R7:2,000回、R8:4,000回 ④オンライン申請利用者の満足度(5段階評価) R6:3.0、R7:3.5、R8:4.0 ⑤本市に対する市民の定住意向の割合 R6:80%、R7:85%、R9:90% ⑥窓口タブレットソリューション利用者の満足度(5段階評価) R6:3.0、R7:3.5、R8:4.0	6課10手続きについて、手続きデジタル化を実施する。 令和6年8月 契約締結 キックオフ会議開催 令和6年9月 担当課説明会開催 今後、令和7年2月を目標に、オンライン申請及び窓口タブレット活用を開始する予定。